

サガハイマツト通信

Vol.15

(平成29年1月号)

サガハイマツト治療者数が1,700人を超えました



昨年の重粒子線フォーラムの様子=武雄市文化会館



公益財団法人
佐賀国際重粒子線がん治療財団

理事長 中川原 章

新年ごあいさつ

あけましておめでとうございます。

サガハイマツトは平成25年8月27日に治療を開始して昨年未までに治療患者数が1,700人を超えました。これも、これまで開設、運営にご協力いただいた皆様のお陰と深く感謝申し上げます。

今年の4月には、最新の照射装置を備えた3室目となる治療室Cを稼働させる予定です。また、新しく治療対象部位として婦人科系腫瘍の子宮がんの準備を進めております。これからも患者さんに安心して治療を受けていただけるよう職員一丸となって取り組んで参りますので、今後ともよろしくお願い致します。



サガハイマツトは、九州国際重粒子線がん治療センターの愛称です

サガハイマツトの受診に関する相談窓口

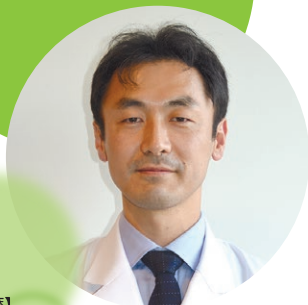
電話 0942-50-8812

(受付時間: 平日の9時~12時、13時~17時)

メール saga-himat@saga-himat.jp

九州国際重粒子線がん治療センター(愛称:サガハイマツト)

松本圭司 医師
インタビュー



【略歴】

まつもと・けいじ / 1979年広島県生まれ。放射線医学総合研究所重粒子医科学センター病院(千葉県)、九州大学病院放射線科などを経て2016年4月からサガハイマツト勤務。放射線治療専門医、がん治療認定医。

粒子線がん治療 サガハイマツト

サガハイマツトの医療連携のひとつに「粒子線がん治療外来」があります。現在、佐賀大学医学部附属病院をはじめ、九州大学病院、久留米大学病院、福岡大学病院の4つの大学病院に開設されています。九

地域に根付く重要な医療機関を実感

▼サガハイマツトに昨年4月、着任されて9カ月。これまでを振り返っていかがですか。

実際に着任してみて、想像以上にサガハイマツトが地域に根付いていることに驚きました。患者さんは九州一円だけでなく全国から来院されており、職業や年齢層などもさまざまです。また、サガハイマツトとの医療連携に慣れた先生も多く、大小さまざまな病院との連携が構築できていると感じています。

▼サガハイマツト着任前は、九州大学病院で「粒子線がん治療外来」を担当。がん患者にとって、九州内4カ所で新しいがん治療の相談ができることはとても心強いと思いますが、そこでの経験などを教えてください。

手術や抗がん剤、放射線など、がん治療にはさまざまな選択肢があります。われわれ医師はがんの部位や患者さんの症状に合わせて治療計画を立てていきます。この外来では、粒子線がん治療を希望する患者さんへの情報提供や適応判断、サガハイマツトへの紹介を行っていました。

▼「粒子線がん治療外来」にはどんな利点がありますか。

患者さんが他の診療科を受診していても、院内に粒子線がん治療外来があればすぐに相談しやすいというメリットがあります。また、院内の他の診療科の医師にとっても、内線電話で簡単に情報交換できるため、粒子線治療を検討しやすいという、患者さんに適した治療法を総合的に判断できるようになります。

▼改めて重粒子線治療の特長を教えてください。

重粒子線は、がんの部位に集中的に照射することができます。そのため、周囲の正常な臓器への影響を最小限に抑えることができることから副作用が少なく、体に優しい治療と言えます。また、エックス線よりもがんをたたき力が強く、従来放射線治療が効きにくいと言われていた悪性腫瘍に対しても良好な治療成績が報告されています。この特長が評価され、切除が難しい骨軟部腫瘍への重粒子線治療が昨年4月から公的医療保険の適用となりました。

▼治療を進めるに当たり、患者さんに対して心がけ

外来経験を の治療に生かす

州大学病院でこの外来を経験し、昨年4月、サガハイマツに着任した松本圭司医師に、重粒子線がん治療やサガハイマツについて聞きました。

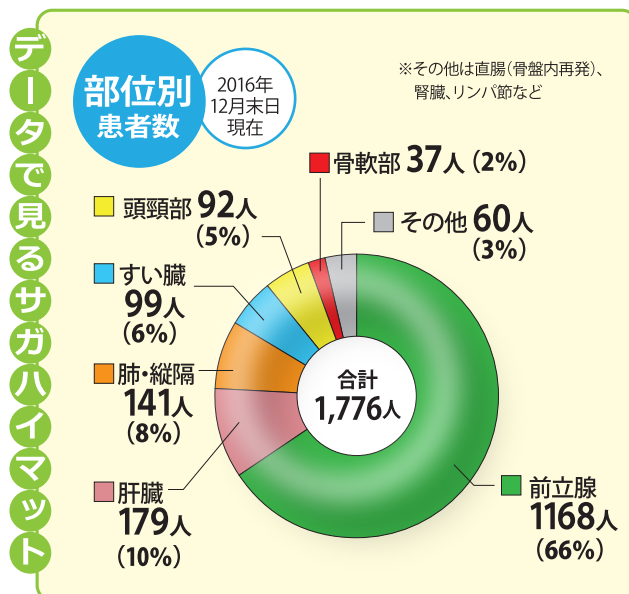
ていることは何ですか。

昔と異なり、今はがん治療も、患者さん自身が治療法を理解し、選択する時代です。重粒子線がん治療は新しい治療法であることから、患者さんに安心して治療に臨んでもらうために、特に初診時には治療法を納得されるまで詳しく説明するように心がけています。

子宮がん・食道がんの治療開始へ準備

▼今春には新しい治療室もでき、治療対象部位も拡大すると聞いています。治療に携わる側としての意気込みなどをお聞かせください。

重粒子線はこれからも進歩していくがん治療だと思っています。新しい技術を搭載した治療室では、より精度が高い照射ができるようになるうえ、サガハイマツでは治療対象部位に子宮と食道が加わる予定です。私自身は、子宮がんを担当することになるため、きちんと治療が開始できるように準備を整えていきます。また、努力を怠ることなく、治療をしていく中で課題が出てきたら、優秀なスタッフと一緒に解決の方法を模索し、よりよい治療に結びつけていけたらと思います。



御礼

ふるさと納税による支援が 5000万円を超えました

これまでにサガハイマツにお寄せいただいた寄付は、法人から60.8億円、個人から4.6億円、合計65.4億円となりました。このうち、佐賀県へのふるさと納税による寄付は5700万円に上っています。

「ふるさと納税」とは、自治体への寄付の一つで、確定申告等を行うと、一定の範囲内で、寄付金額から2000円を差し引いた額が所得税と住民税から控除される制度です。

佐賀県へのふるさと納税では、施策応援コース「重粒子線がん治療の推進」を選択することで、サガハイマツを支援することができ、サガハイマツの次世代型照射装置の整備や医療従事者の確保・育成などに活用されます。

さらに、「一度に多額の寄付はできないが、ふるさと納税なら毎年少しずつ寄付ができるので、がん撲滅のために使ってほしい」と毎年ふるさと納税をしていただく方もいらっしゃいます。このようなリピーターも全体の3割を超え、サガハイマツ支援の大きな力となっています。

詳しくは [ふるさと佐賀県応援サイト](#)

佐賀県福祉課粒子線治療普及担当
☎ 0942 (87) 3072

参加者募集

3月4日に唐津市で初となる重粒子線フォーラム開催!

がん治療の新たな選択肢として期待されている重粒子線がん治療と、その治療を提供するサガハイマツトについて理解を深めてもらおうと、サガハイマツトとサガテレビの主催により、唐津市で初めて重粒子線フォーラムを開催します。

サガハイマツト&サガテレビ医療フォーラム

「重粒子線がん治療
新たなステージへ」

とき 3月4日(土)14:00～16:00

ところ 唐津市民会館大ホール(唐津市西城内6番33号)

近況報告

①「サガハイマツトの今とこれから」

九州国際重粒子線がん治療センター センター長 塩山善之氏

②「子宮がん治療の開始に向けて」

九州国際重粒子線がん治療センター 医長 松本圭司氏

特別講演

③「医療と文学の融和」

「チームバチスタの栄光」著者 海堂尊氏(作家・医師)



海堂尊氏

入場無料 定員:先着680名
(参加登録が必要)

【参加登録方法】
WEBまたはFAXでお申し込みください。

WEB <http://www.sagatv.co.jp/>

FAX 0952(29)2868
(住所、氏名、連絡先、参加人数を記入)

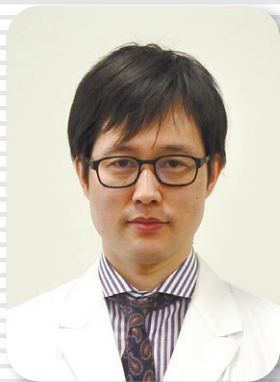
【問い合わせ】
サガテレビ ☎0952(23)9118
(平日9:30～17:30)

スタッフ紹介

主任医長 篠藤 誠さん

【略歴】

しのとう・まこと / 1978年愛媛県松山市出身。九州大学、九州がんセンター、放射線医学総合研究所重粒子医科学センター(千葉県)を経て2013年6月からサガハイマツト勤務。趣味は、美味しいお酒を飲むこと。



安全で確実な治療を目指す

学生時代に切らずにがんを治せる粒子線治療を知り、からだに優しいがん治療をしたいと強く思いました。放医研で重粒子線治療に携ったときに、従来のエックス線治療では治せなかったがんを重粒子線治療により治せることを多く経験しました。今はまだ施設が限られており、特殊かつ高額な治療ですが、日々の診療を丁寧に続けながら、研究・人材育成を継続的に行い、より多くの疾患で保険収載を目指していかないとはいけません。施設が増加するとともに低コスト化が進み、多くの患者さんにとって身近な治療になることを期待しています。

●寄附をお願いします●

佐賀国際重粒子線がん治療財団では、引き続き皆さんからの寄附を募集しています。県内、ひいては九州のがん医療の充実につながるサガハイマツトへのご支援をよろしくをお願いします。

なお、当財団へご寄附をいただいた方には、特定公益増進法人に対する寄附として、税制上の優遇措置があります。詳しくは、当財団までお問い合わせください。

サガハイマツト通信 vol.15

(平成29年1月号)

【お問い合わせ】

発行 ■ 公益財団法人
佐賀国際重粒子線がん治療財団 (担当)本村

所在地 ■ 〒841-0071 佐賀県鳥栖市原古賀町 3049 番地

TEL ■ 0942(81)1897 FAX ■ 0942(81)1905

H P ■ <http://www.saga-himat.jp/>